



2009/11/19開催・月例セミナー

# 非流動資産への投資と時価評価

～「プライベート」であることの魅力とリスク～

## セミナーアンケート結果

HCアセットマネジメント株式会社



# 「セミナーテーマに関するアンケート」結果報告

---

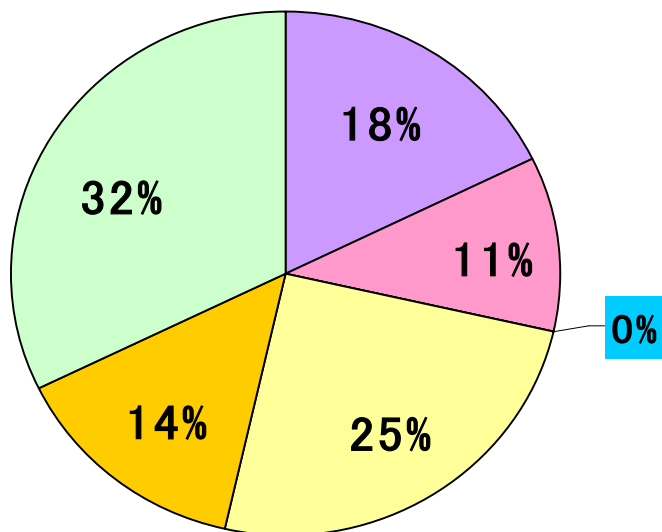
本セミナーにて、バリューアップにおける投資先への関与のあり方とプライベートな投資の自己評価についてアンケートを実施。

- ・セミナー参加者人数 計43名
- ・アンケート回答者人数 計28名

**回答率 : 65%**

※小数点第一位以下切捨

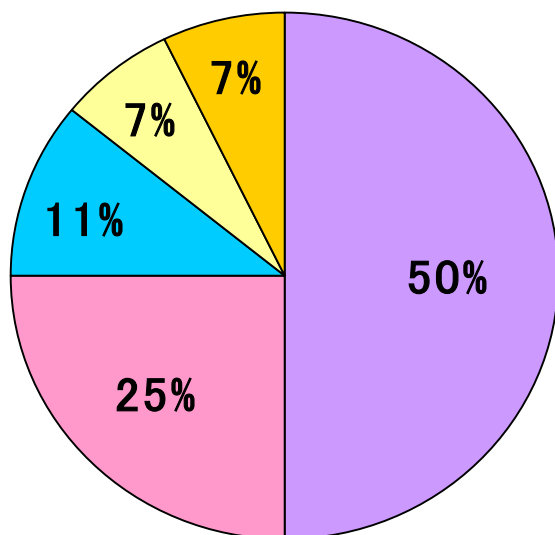
# アンケートにご協力頂いた方の業種別割合



	人数
①	5
②	3
③	0
④	7
⑤	4
⑥	9

- ①年金基金もしくは母体企業の資産運用管理者
- ②金融機関の自己資産運用担当者
- ③大学財団など、その他法人の資産運用担当者
- ④投資運用業者(信託銀行を含む)
- ⑤コンサルタント
- ⑥その他

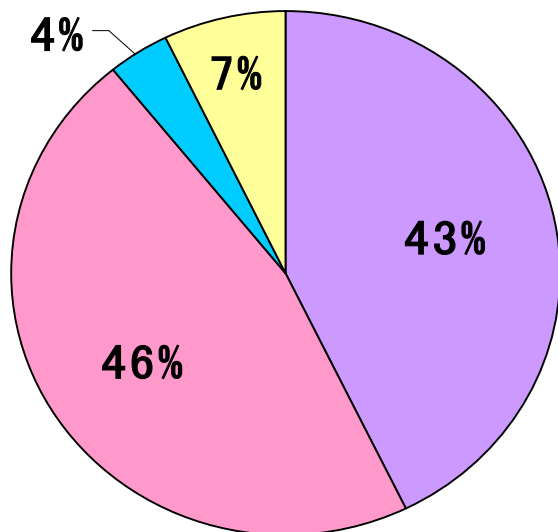
Q1 パブリックな運用は、個別銘柄の売買(低い価値のものから高い価値のものへの入替え)によって、ポートフォリオ全体の価値を高める運用ですが、プライベートな運用は、売買によらずに、投資先への積極的関与によって、個別銘柄ごとの価値を高める、いわゆるバリューアップ(Value Up)型の運用です。さて、そのバリューアップにおける投資先への関与のあり方について、次のどれが重要だとお考えでしょうか。一番重要と思われるものを、一つだけお選びください。



	人数
①	14
②	7
③	3
④	2
⑤	2

- ①本来的に、事業投資に近い性格を帯びるものなので、企業への投資(株式であれ、債権・メザニンであれ)であれば売上げの拡大、不動産等であれば賃料等の増収という、実業のレベルでの支援ができることが重要である。
- ②実業は、投資先の企業等の内部問題であって、個別性が高い。投資としての関与のレベルでは、実業を支える一般的経営資源管理(人事、財務、IT、ロジスティクスなど)の分野での、コスト削減や効率改善に、重点を置くべきである。
- ③投資というのは、あくまでも実業を金融的に支援することなので、成長資本の調達や、財務的なリストラクチャリングなど、最適資本構成の提案と、その実現支援に、特化すべきである。
- ④投資というのは、所詮は、時間の利益を供与すること、つまり、一時的に保有者のいなくなったリスクを預かることなので、投資時の価値の維持が基本であって、できるだけ早く、回収の道筋をつけることが重要である。故に、投資先に対するバリューアップが問題ではなくて、エグジット先へのバリューアップ提案が重要である。
- ⑤その他

Q2 プライベートな投資の時価評価について、どのように、お考えでしょうか。一番近いものを、一つだけお選びください。



	人数
①	12
②	13
③	1
④	2

- ①簿価(取得時コスト)評価でよい。減損も、明らかな劣化が認められる場合に限ってよい。
- ②簿価(取得時コスト)評価でよいのだが、資産査定は厳格にして、積極的な減損を行うべきである。
- ③類似案件の参考取引価格や収益還元法などを用いても、実勢価格に近い評価時価をつけるべきである。
- ④その他